# はちのへ

## 令和4年3月定例会

No.120

2022年(令和4年)4月20日発行







ハチカでおでかけ

タッチ!

### ■令和4年度八戸市一般会計予算などを可決

令和4年3月定例会を2月21日から3月17日までの25日間の会期で開き、総額913億円にのぼる令和4年度一般会計予算や、八戸市副市長に関する人事案件を含めた議案61件、議会案2件を可決しました。

令和4年3月定例会において、正副議長の 辞任に伴い選挙を行った結果、第42代議長 に寺地則行氏、第43代副議長に松橋知氏が 就任しました。



寺地 則行 議長



松橋 知 副議長

令和 4 年 2 月26日より、八戸圏域地域 連携 I C カード「ハチカ」のサービスが開始 されました。電子マネーとしての機能や、貯 めたポイントが運賃の支払いに使えるなど、 便利な機能が盛り沢山です。

### 主な内容

○議案審議結果、請願・陳情の審査結果など

.... P2~3

〇新年度予算などに対する各会派の意見

•••• P4~5

○一般質問 •••• P6~8

市議会の詳しい情報は、ホームページでご覧になれます。

八戸市議会





# 議案審議結果・賛否一覧表

【全会一致で可決されたもの】

予算	令和4年度予算 八戸市自動車運送事業会計/八戸市立市民病院事業会計/八戸市下水道事業会計/八戸市国民健康保険特別会計/八戸市都市計画土地区画整理事業特別会計/八戸市学校給食特別会計/八戸市駐車場特別会計/八戸市中央卸売市場特別会計/八戸市霊園特別会計/八戸市介護保険特別会計/八戸市国民健康保険南郷診療所特別会計/八戸市後期高齢者医療特別会計/八戸市母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計 令和3年度補正予算 八戸市一般会計(議案第18号、57号)/八戸市自動車運送事業会計/八戸市立市民病院事業会計/八戸市下水道事業会計/八戸市国民健康保険特別会計/地方卸売市場八戸市魚市場特別会計/八戸市都市計画土地区画整理事業特別会計/八戸市学校給食特別会計/八戸市駐車場特別会計/八戸市中央卸売市場特別会計/八戸					
	市霊園特別会計/八戸市介護保険特別会計/八戸市国民健康保険南郷診療所特別会計/八戸市後期高齢者医療特別会計/八戸市母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計/八戸市産業団地造成事業特別会計					
	あんどう しょうご 八戸市固定資産評価審査委員会の委員の選任(安藤 祥 吾 氏) いしどう りゅう けいちょう よう こ					
争 	人権擁護委員の候補者の推薦(石動 龍 氏、慶 長 洋子 氏)					
条例	<b>新規制定</b> 八戸市中小企業・小規模企業振興基本条例					
	一部改正 ハ戸ポータルミュージアム条例/八戸市附属機関設置条例/八戸市職員の服務の宣誓に関する条例/八戸市					
	職員の育児休業等に関する条例/ハ戸市特別会計条例/ハ戸市民生委員定数条例/ハ戸市公衆浴場法施行条例/ハ戸市児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例/ハ戸市国民健康保険税条例/ハ戸市消防団条例/ハ戸市非常勤消防団員等公務災害補償条例/ハ戸市職員定数条例/ハ戸市都市公園条例/ハ戸市開					
	例回来例/パア巾非市動用的回貨等互易及音幅資本例/パア巾職員定数末例/パア巾都巾互園末例/パア巾開   発行為等の許可の基準に関する条例					
契約						
	包括外部監査契約					
	一部変更契約					
	八戸市営魚菜小売市場改修等建築工事請負契約/新大橋整備工事(その3、その4、その6)請負契約					
その他	市道路線の認定について/八戸市立市民病院事業利益剰余金の処分について					
	第7次八戸市総合計画を定めることについて					
意見書	水田活用の直接支払交付金見直しについて慎重な対応を求める意見書					
そ の 他	ロシアによるウクライナへの侵略に対して抗議する決議					
	人事     条例     契約     その他     意見書     その					

区分		会派名議案	市民クラブ	クラブ	無所属の会	公明党	議 員団 党	無所属	議決結果
市長提出議案	予算	<b>令和4年度予算</b> 八戸市一般会計	0	0	0	0	×	0	原案可決
		地方卸売市場八戸市魚市場特別会計	0	0	×	0	×	0	原案可決
		八戸市産業団地造成事業特別会計	0	0	0	0	×	0	原案可決
	人事	いしだ しんいちろう 八戸市副市長の選任(石 田 慎 一郎 氏)	0	0	0	0	退	0	同意
	条 例	<b>一部改正</b> 八戸市奨学金条例	0	0	0	0	×	0	原案可決
	契約	一部変更契約 ハ戸北インター第2工業団地造成(調整池地盤改良工)工事請負契約	0	0	0	0	×	0	原案可決

### 請願・陳情の審査結果

採:採択 不:不採択

区分	会派名件名	市民クラブ	クラブ	無 所属の会	公明党	語 員 団 業 員 団	無所属	議決結果
請願	コロナ禍による米の需給改善と米価下落の対策を求める請願	不	不	採	不	採	不	不採択
	加齢性難聴者の補聴器購入への公的補助制度創設を求める請願	不	不	採	不	採	不	不採択
陳情	インボイス制度の実施中止を求める意見書を国へ提出することを求める陳情	不	不	採	不	採	不	不採択
	国立八戸病院の機能強化についての陳情	_	_	_	_	_	_	継続審査

- ■森園秀一前議長は採決には加わっていません。
- ■本定例会の個別の賛否状況については、ホームページでご覧いただけます。

### 会派別所属議員

	山之内 悠	間 盛仁	久保 百恵
白山民主,	岡 田 英	日當正男	高山元延
自由民主・市民クラブ	工藤悠平	藤川優里	小屋敷 孝
1,212,22	森園秀一	壬 生 八十博	豊田美好
	松 橋 知	立花敬之	坂 本 美洋
 	吉田洗龍	髙橋貴之	田名部 裕 美
き ず な ク ラ ブ	三浦 博司	寺 地 則行	冷 水 保
	五戸定博		
新 緑 ・ 無所属の会	伊藤圓子	山名 文世	吉田淳一
公 明 党	高橋 正人	中村 益則	夏 坂 修
日本共産党 議員団	久 保 しょう	苫米地あつ子	田端文明
無所属	上条幸哉		

### 令和 4 年度八戸市一般会計予算 予算総額 913 億円

#### 主なもの

〇幼児教育・保育の無償化関連事業費 ・・90 億円 (認定こども園、幼稚園、保育所等の

利用に係る給付費等)

○新型コロナウイルスワクチン接種事業費

・・・・10 億 5,600 万円

〇感染症対策事業費 ・・・・・1 億 8,700 万円 (PCR 検査体制強化、自宅療養者等対応強化、

検査キット活用事業等)

〇八戸市商業団体等販売促進支援事業費

・・・・2億7.000万円

(各組合、団体等が実施する販売促進事業に対する助成)

# 新 年 各会派の意 予算などに 見 対 す

ഗ 本 令 会 和 4 で 年 全議 度 (予算 案とも お よび 賛成 関 多数 連 議 で 可 案 は、 決されました。 予 算 特 切別委員 会 の 審 査 を 経 て、 3 月 17 日

ത 採 で、 決に先立ち、 そ の要旨を掲 各 会派 載 派議員が、 )ます。 会 派または 自 己の 賛 否 の 意 見 表明 を 行 いま

予算特別委員会のようす (新型コロナウイルス感染防止のため、2つの会議室をオンラインでつないで審査しました)

対 民 ど て 想 明 着 を い ま 最 心 と感 ると いく な状況に れる一 評 財 される中、 応などさまざまな 優 を 白 価 政 守 染症 i する。 ため の課題とし、 の 同 ることを第 推 方、 健 時 全性 1= あり 送事業で を図ることを 対策に取り 戦 引き続き市 略 当 市 にも配 市債 市の 税等 的に施策を展開して 厳 しい は、 発行 未来を創り上 の 財 時 に 組 慮している点 見 感 財 代 政 み、 民の安全・ 額の 通しは不 の変 染症 要望する。 需要が見込 乗り合い 政運営が予 抑制 化 施 対 策 <u>へ</u>の 策 バ の 安 な げ 透 を

由民主・ 全議案に賛成 市 民クラブ

自

般 会 各 特別 会 予算 がは、 市

ŧ 早 きずなクラブ オ い ミクロン 地 域 経 全議案に賛成 /株感 済の 染拡 回

> 議 発 支 般

を高く評 広く の 揚 するよう、 修 を二本柱とし 繕費の 般 達 げ 市民 成率 会計 市場 目標に対 であ が多 特別 価するが、 予算を大幅 予算では、 料金設定の り、 会計 様に 編成 漁 獲 改 予算では、 使用できる施 された令和 固復と感 YSアリー に 小 善 中学校施 大か 増額したこと 計 量 検討を求める。 画 は \_ 2 年 5 染 ら 年 4 症 の 設と ナを 6 設 年 目 間 対 度 刻 水 の 策

*ل*م サ き 化 計 上さ ポ | 健全な経 に資する予算 ഗ 市 両 効 民 率的 病院 トセ 立が図られることを期 営 の ンター な業務運営を期待する。 営 医 事業では、 健 の . 療 全 海成 提供 維 化 改 持、 ح であり、 体制 修工 公営 収 の充 事費 · 交通 益確保に 仮 称) 引き続 実、 など 待 **ഗ** する。 患 使 努 強 が 命

今 の ポンプ場の な 道 サー 両立 بخ 後も、 下水道事 健 全 ビスの提供を期待する を図るための予算編成であり、 将 ず業では、 来にわたる安定的 な経営と着実な事業実施 建設改良事業を予定する 管路、 処 な下 理場、 水

> をして 令 ない 場 合 利活 和 4 おくべきと提言する。 用 は、 年 を 度 含め ŧ 後 た抜 ഗ 標 Α 達 本的 棟 成 魚 ഗ 改革 市 見 場 込 の の 24 準 新 が 備 た な

足度 や家 | |-る医 安全 営健 利便 会に 市民 防 払 ハチカ」の導入を起爆 財 下 自 動 水道事 止 つ 源 た事 向上 性向 車運 報告するよう強く求め から工事 族のサポート センター 療体制充 病院事業では、 安心な事業運営を要望 全化とバスを必要とする方へ に 努 め、 実を 上に 送事 業 に努めることを要望 で 問題 は、 業では、 重く受け 契約の損害賠 開設などによ 実、 取り組むとともに、 発生 令和3年度 体制を充実し、 仮職 Ι 一時は 止め 員の 剤 称 С 患者 り、 増員 する。 る。 早 て、 償 カ す の I 期 金 る に再 患 サ 層 を

ボ

ょ

の 経 の

満 者

### 新 緑 部の議案に反対 無 所 属 の

の改 解 つ精 ŧ に至 見込 善 魚 通 市 った つみは、 画 荷 て 場 いる市 捌 の 特 ため、 が き 所 2 別 0 2 2 ほ 会 A棟に関 ぼ困 長の 計予算で 反 人対する 開難で 年度 手腕 ある の目 する に期 は 第 2 ع 標 待 漁 の 達 し 業 つ 成

心

快

適

(なよりよいサー

ビスを提

ス

購

入費が計上されるなど、

安 全

要 望 拡た る 持 体 業 ŧ 横 2 ンクさ を埋 充 ととも ത ഗ 断 自 2 か 多 動 般 で バスロ つE あ込み、 営努 2 の せた < 車 取 保していることを高く評 会 が 効 運 IJ 賛 計 成す 力を重 送事 第 フ 予算 >バス導入計 民営化され 性に期待 組 さらなる利便 ケーションシステム 9 むことを評 · 業 で つ 次 で ね တ 未 総 は、 は 合 た中、 共 市 点 計 S 賛 画 民 公 価 創 D 成する。 の 性 の 営 題 推 するとと の G 労 使 足を 交通 検 向 進 中 s 上 討 価 戦 組 に の の を す 維

指 向 族 1= 院 ع 上 敬 努 市 あるた · 水道 めるよう要 の か 民 らも、 確 期 IJ て 病 を表するとともに、 事業 常 院 保 待 添 った医 め ゃ に高みを目 事業では、 んは、 効 都 (望し、 さらなる普及率 賛 率 市 基盤 衛 生 上 反成する。 ||療サー 的 に整備 巻 賛成する。 整 指 ・ビス 快 備 す 域 を図 適 患 経 の の 評 な ത 者 営 中 る 向 生 -姿 価 質 核 家 上 必 の 活 の 勢 病

# 公明党

要

# 全議案に賛成

営 う

維

経 診

営 療

維持

努 へ の

めることを要望

エする。 全な

報

栦

改

定

対応など、

健

ビ

般 会 計 各 特 別 会 計 予 算 は 厳

> て いくという強 課 創 掲 い いることを評 げ 財 を克 た 政 戦 重 環 服し、 境 2 施 ഗ 中 意 22に基づき、 を 価 当 気込 市 反 市 。 る。 の未来・ 映 長 させ、 3 ഗ が 政 を 反 策 映 創 未 公 重 来

要 共 に

れ て

今

後

果

的

染

症

ゃ

物規

つ ビ 象 取 1 る 地 いて ップ化の促進を図ること、 スのさらなるデジタル 拡大に向け IJ 対 域 組 経 策 は 要望する み、 済 新 の 子ども 大橋 再 効 *t*= 生 の早期 取り のた の な感 組医 80 完成へ向 み、 の 療 費 化とワンス 実 対 助 効 行 などに 政 成 性 かり の け の 対 た あ

減国

る 金

改に で タ め す (= | きる るた た I て 市 善 期 自 いる 民 に 待 動 つい (病院 めの 努め、 し、今 機 Cカードによる利 車運送事業で 能 ( 仮 て、 ع 取り 事 (称) . 業 公営 · 後 多 て期 では、 ŧ 組 \_ 様 患 み 交 なニー 待し、 者サポ は、 を 通 要望 の 材 現 使 在 確 便 新 今後 ズに 保と 整備 たに Ì す 命 性 ・トセン を全う る。 の向 ば、 . 対 応 を 経 導 進 営 上 入

スを提供するよう にあるが 理 事 費の えば、 大など、 今 施 後も 設 要望 の 老 安 ナする 定 厳 朽 的 化 な い 1= 経 伴

## 日本 ·共産党議 部の議案に反対 員 団

などの が、 民 利 魚 の 模 市場 健 新 便 企 般 特 規 性 康 業 会 特別 実 保険 別 向 計 振 計 現 障 予 上などに ービジネ 会計 を求 税の 害者 基 算 本 で 7子ども: -予 算 め 手 は ついて ス支援 当 例 の支 で 反 の 中 対 は、 均 制 小 等 給 は 定 企 る。 。 Α 業 ゃ 割 充 業 棟 の 実 価 補 買 も の 枢 す 肋 小

が、 事 لح 民 ま 累 から、 業 で の 積 は見通 の中 理解 赤字 改善は見られ たを得られ 改 善 止 は を 世 5 求め、 計画 ない 億 円 の途 るも と考えて ず、 以上となって 反 (対する。 中で 目 の 口標も今 で おり、 あっ は な いこ いる て の 市 ŧ ま

と考え、 ル 規 い 経 は、 中、 ス感染 模 済 産 開発 業団 成 企 、長が長期に 業の 巨 がは再 地造 反対する。 拡 費を投じる呼 倒 大防 考 産件 成事 止 Ļ 数が わたって見込め 業 に 全 新 特 力を び 型 増 別 ーコロナウイ 込 加 会 注ぐべ み型 し続 計予 一の大 け 算 き な で

況 自 力効 民 向 の 動 車 中 病 でも 運送 院 努めていることを 事 . 期待 事業 業 バスの更 で をし、 で は は、 分新を ドクター 賛 厳 成 行 し がする 評 い 価 経 カ 利 営

事

業

展

開

を

期

待

す

る

便 状

> 医 い ド る役 ることを 師 派 ク ター 遣 割 を 事 評 業 果 ^ IJ 価 で た 地 Ļ ഗ 域 出 医 賛 近 動 隣 成 . 療 は 次に貢献. する 市 命 町 綱 村 ع ŧ の て い

## 無 所

# 全議案に賛成

回 ど 症 さ な の新 の策 課題 要を型いる。 の動 復 れ 1= て 般 向を 尽力するよう要望 を ま ゚ロナウイ い 会 課 で、 積 る 計 極的 注視しつつ、 点 題 から未 を 戦 各 に講じ、 高く ルス感 略 特 的 別 来を 評 会 重 価 染 計 す 消 症 地 す 点 形 予 費 る。 域 る 的 作 算 経 喚 策 で る 起 感 編 済 重 な は ത な 染 成

ビス向 り 価 などの 力 て لح あ 組み って、 を評 なって努 いることを 下 市 自 動 水 民 に尽 上に 課題 道 心 価 車 病 連 医 事 の 院 力し 師、 業 カするよう 通う医療への 尽力するよう要 1= 送事業では、 事 引き続し 評 で 子業では 取 看 護 り組 ているこ 価 は Ļ みな き、 健 師 要望 今 全 口口 経営 さら とを がら、 乗 経 後 職 す 員 望 の 務 営 ナ 高く 着 1= な が す 員 改 。 る 禍 サー る 確 実 努 善 評 体 保

# 般 問

#### 和 4 年 度 の 市政 運 営 方 針

令

由民主・市民クラブ代表 小 ·屋敷 は

IJ 日 る 創 合 政 タートとなる重 < 初 市 問 計画 の当 答え 戻 令 推 運 政 前 運営 生 ずとともに、 和 営 進させ い 活と の下 初予 4 戦 1= 取り組 年 略 方 2 · 算 編 経済活動 度 令 針 政 る は、 新 和 1= 策 ついて何い たに 要な 22に基づき運 んでいく。 成を経て 4 公 新しい八 グリ 感 年 約 度は の実現 年 を 染 策 定 で、 症 日 流 し 市 市 戸 たい。 化 ŧ た 第 全 長 行 政 フ次 やデジ 早く カ で を大 以 未 就 向 の 来 前 営 け 任 取 の す 共 総 市ス き

の に創 大切 その他の質問 向 け、 を 改め さらなる元気な八戸」 全力を尽くしてい いて胸に刻っ み 市 **<** 民と

り

組 

ま

た

「 対

が話」と

共

感」 に取 きや

タ

といった新たな時

代

の

動

ĺ

へ の 対

応などへ重

点的

子どもファースト 事業につ い て

# 八 戸えんぶりの活動 きずなクラブ代 支援

答 え

年

蝓

ゃ

性

多

な



地 則

行

要と考えるが、 んぶりに 問 い つい 2 年 て、 所見を伺いたい 連 続 特 で中 段 တ 止 支援 ح なっ が 必た

に 修 所 課 ど 組 ん 止 いぶり支援・ の収入が 一により、 答え 交付した。 繕費などにつ や倉庫の 32 題であったため、 組 に対し一律5 )使用 減 り、 昨年、 事業」として、 各えんぶり 料 い 活 八戸えんぶり て、 衣装や小道 万 円 令和3年度「え 動 経 組 5 5万円を上限表や小道具の を、 費の は門 え 練習場 んぶり 確保 付 ゖ တ် が な 中

が 具 な 2 その他の質問 体的 負担 必要であると認 年 えんぶりの保 連 .. の 軽 な支援について 続の中止 減と披露 による各 存 識 して ずる 継 検討している。 承 おり、 機会 組 を の 义 一の創 経済 る 現 た 在 出 的 め

八戸 八戸 . 市体育館の建て 市の未来について 替えについて など

# 男 女共 同 参画のさらなる推 新

無 田 名 文 世 無所属の会代表

進

を

お て伺 ける男女共同 問 第 7 参画 次 八 တ 戸 位 市 一置付け 総合計 画

など

戸 男 政 るという考えの 相 た 指 ことのできるまち八戸 ۲ に ŧ さらに、 市男 互の理解や が 自 取り組みを着実に す姿として掲げ、 女 策のうち なり推進 生きる社 で 一人ひとり 成さ 女 分らしく暮らして (共同 新たに の一つに する 会」を構築する必 参画 受 六つのま いる 容などに が生き生きと暮ら 下、この 基 . 策 その 位 置 地 域 別など 推進していく。 本 定する第5 /市」を 計 実現 画 付けている。 ちづくりの 地域が一体 より「と いくため で に向 は、 更が 市 の 次 け す 誰 目 八 あ

【その他の質問

公共交通への新型  $\neg$ ナ 支 など 援



別支援教育の体制整 備 ഗ 状況 は

公明党代表

問 い 県 တ 重 点要 望に 挙 げ

て

坂

修

て 配 諭 い 免許 ത 置 る 取 各 ij 状 つ 小 組 所 中 て 学 24 持 状況を伺 者 校 県の ത の 計 処 画 特 理 別 的 たい 方針 採用 支 援 を ع 学 受 適 校

いるほ 備 など、 で 22 名 許 所 用 【答え】 は良 法認 候補 持者に対 好に 定講 か、 特 が 者 同 別 選 習の する 推 移 免 許 現職 考試 支 令 和 援 教育に 受講に 状を 教員 2年 している 加点措置 験 におけ 新たに取 を対象とする 度 関す により、 から、 うる同 が る 取 得する 7 体 ら 免 教 年 員 制 れ 許 間 免 状 採 て

用 制 研 整備 修を が 市 進 として が進 通 む よう促 して資質向上を むよう取り は、 すとともに、 同免許状 り組んで 図る 所 持 いく。 など 教 者 員 の の 活

【その他の質問

について 新型コロナワクチン တ 接 種 な 体 ど 制

### 教職員の )人事評 価 制 度の 現 状 は



日本共産党議員団代 田 表 明

映区分の見直し 問 考え、 い 対 応するの 人事 について、 評 価 か伺 ത 現 状と給 い どの た ょ 与 反

同 性 【答え】 て平 制 化 度 ゃ を学 -成 28 年 教 職 校運営に生かすことで 同 員 度 制 の 度は、 から導入され 資 質 向 学 校 上 を目 組 て 織 ぉ 的 の لح 活

協 教 b 働 職 は れ 的 員 るように が 教 職 参 務 職 画 員 意 ഗ なってきて 取 IJ  $\pm$ を 気 組 ŧ 向 む ち、 学 い ゃ 校 主 能 る が 体 力 多 的 な

反 が 6 市 映 あ 1= 見 ع 区 る さ 応 れな 分を 直 し ح ら じ て し な た いに 見 て る 適 は ょ 取 直 切 ょ IJ 県 すこととし 令 IJ な 組 制 の 和 処 留 度 対 4 24 遇 意 本 応 年 を 確 来 を 度 進 保 て တ 注 て から給 め の る必 目 視 い 観 る。 **<**。 点 的 し が つ 与 要 か

### 水 水 道事 産行政につい 事業の損害 て 賠 償

その

他の

質

問

ずなクラブ 髙 橋

之

なについ

ての

再発防-

止対策

は 払

金支

い

事

な

ど

ような

を

研

究 値

て 再

を

検 通

討

し

価

を

発

見.

す

る な 市

流

だけ

で

な 点

<

さま

ざぎま め、

【その

他の 取り

質問 組み

₹

1

1=

な 金 長 一を支払 再 期 問 発 間 い 防 が 止 った事象につい 経 対 過 エ が策を伺 Ļ 事 着手 契 い 約 が たい 解 で て、 除 き な တ 具 上 い 体 賠 ま 的 償 ま

い 度 発 年 ۲ 生に は、 12 ع 答 再 発 っ 月 え 発 至 か 防 さ ら で て つ 変 止 検 た 玉 重 賠 対 世 と協 事 < 今 証 償 策 な 金支 い 般 を 実 受 ഗ 進 関 け 議 策 た 係や を重 止め 払い め 同 め 定 て 様 を き 実 の お て 1= 目 ね 効 お 至 事 指 互 り、 象を 性 い 事 つ 象 の の た 認 の昨 現 高 こ

> 在、 玉 لح 詰 め の 協 議 を 行 つ て い る

> > の

1=

つ

い

て、

所 る

見

を

伺

い

### そ ഗ 他 の 質 問

財 八 戸 政 1= 市 つい 公 契 約 条 例 1= つ い て

#### お゛ < な み 用 窓 ഗ 設 置 ع 運 用 は

未利用魚とぼかりょうぎょ

呼 外 場

ば れ さ

れ

る

魚 ま

が

ŧ ゅ

つ る

てし

ょう、

い

わ

力を

お

願

い

して

い

る。

ら

市

場

に上

ず、

般

的

な流 理

通 か

は、

見

た

目

が

悪

な

ど

の

由

木 お な

答 活

え 用

漁

水

産

資 LI

源 た

の



公 明 党

た

い

な

いことで

あ

る

と認

している。

用

魚

ょ

うな

水

産

物 識 あり、

の

有効

水

幅

な増

大が

見

込

め 利

ル小

中 村 益 則

の 時 ま 説と業務 設 え、 答 問 置 え い 令 を 目 和 の流 これま 指 4 お 年 < れについ 度 ゃ 準 の で 24 備 で の 専 きるだけ を 検 用 て 進 窓 伺 め て 果 ത たい い 早 を る 期 踏

が 種 を 方 で の 補 進 今 式 必 受 申 助 手 専 市 要 め 後 で け 請 続 用 なが とも 民 付け など は 案 な き 窓 の 引 手 内 の 利便 6 き すること 続 る の に 説 で 続 き ほ 手 明 は 性 庁 き は か 続 保 ゃ 向 各 険 死 内 き 申 上 を想 連 関 担 詳 を 請 証 亡 携 当 係 細 ワンストッ の 書 届 努め など 体 課 定している。 課 な 返 け 還 制 で 相 出 ていく。 ヘリレー や年 の作 後の の を 談 構 協 な 築 議 تع プ 金 成 各

てそ の 他 の 質問

不 妊 治 療につ い て

など

### ŧ つ な 自 しゝ 魚

問

い

未

利

用

で

廃

棄

さ

れ

る

鱼

由 民 ഗ 主 活 用 山市 民 ヘクラブ 元 延

設 可 場 な用 能 で い は、 未 利 の 中 性

で

重 揚

要 げ の

な の

視 大

で

あ

る

た

い て 仮 称) 除 八 戸 雪 水 ഗ 産 ア 状 カ デ

つ



自 由 排 民 主 現 市 民 ハクラブ 里

車 車 排 著 い 要 答え 雪に しく 両交 と考える が 幹 問 フ 排 線 い つい 木 通 雪 道 ル 稼 年 難 ゃ 作 路 は、 歩 業 が て 働 な か 除 歩 は 場 行 6 雪 道 順 作 現 大 合 者 幹 の て 状を伺 業 線 雪 幹 ŧ の な 道路 は 除 が 実 通 線 車 い 道 生 施 道 続 行 雪 一と同 < 路 交 通 が し ഗ 優 活 て 先で実 た 追 確 道 い 保 お 量 路 い 様 い る。 除 が の 1= 付 の て、 施 多 重 除 か

> 難 LI い 自 状 な て 助 た は 況 *ل*م -で 共 市 あ 助 沿 で り、 によ 線 全 特 住 て る 民 対 1= 除 ゃ 応 雪 生 地 す 作 活 域 る 業 の こ 道 の 方 لح 路

てそ ഗ 他 の 質問】

政 治 姿 勢 おについ て

な

ٹے

ス感 中 学 染症 校 1= お ഗ け 対 る 応 新 は 型  $\Box$ 

ナ

ゥ



日 本 共産党 苫 \* 地 議 員団 あ つ

子

休 級 つい 業等 問 閉 鎖 い て 対 な 伺 応 ٹے い 助 の 感 た 成 対 染 拡 金 応 お 大 ത ょ 防 び、 周 止 知 ത の 2 t= 見 小 め 学 通 の 校 学

ろで 措 場 が 体 【答え】 学級 調不 校 合、 判 ま 置 ぁ 崩 を た、 が 良 通 閉 必 校 し 同 要 長 ഗ た し 鎖 と判 など が 児 場 て 助 現 童 授 在、 保 成 合 業の の 断 生 の 護 金 の 対 徒 学 者 し ほ 制度 た際 打ち 応 が か、 校 1= を 周 複 で 切り は、 し 数 は、 知 に 発 て し つ 24 熱 ら いて 速 や など たとこ など 陽 い る れ 性 は か

「その 他 の 質

子ども 児 童 福 の国 祉 に つ 保 税 ഗ 軽 減 に つ い な て

<sup>\*1</sup> おくやみ専用窓口…市民が亡くなった際の多岐にわたる申請手続きについて、遺族の負担を軽減し、窓口サービスの利便性の向上を 図るため、手続きをワンストップで受け付けるもの。

<sup>\*2</sup> 小学校休業等対応助成金…小学校など(保育所などを含む)の臨時休業などで子どもの世話を行うことが必要となった労働者に、有 給の休暇を取得させた事業主に対し、助成金を支給する制度。

#### 電 池 ഗ 回 収状況および 緑 無所属の会 藤 回 収 方 法 子

は

【答え】 ゃ 利 ン電 すなどの考えはないか伺いたい。 問 便 性 い を高 池 たなどの リチウムイオン電池など めるため、 小 型 充電 回 回収状況 式 回 のリチウム ځ 収 拠点を増 市 民 の 1

は

19のホー:

ムセンター、

スーパー・

な

な

げるよう各校の支援に努めていく。

複

比

較的大規模

な施設となるため、

数年にわたる段階的な整備を想定

し

ており、

令 和

4年度には、

どが回り ていること で っやすい あり、 ては、 小 っなる周 収協 充 掛けるとともに、市民 形 電 適 乾 ーから、 式電池 で周知していく。 知が必要であると認識 切 電池に比べてまだ不十 力店になっている。 な排出方法について 販売店 排 出の 利便 1= . \_ 収協 性に に 分 か 力 ŧ 分 つ し

# 【その他の質問

達障がい 型 日 児 ナウイル 本共産党議員団 への学習支援 ス感 染 対 を 策 など に

発

を推進するため 問 活用する考えはないか伺い い 発 達 1= 障 が タブレット端 い 児の学習支 たい。 末 援

活用を進め な 児 童生 徒 1= ており、 当 一市では一人 授業などをオンライ 集 団 参加 台 が 端 苦 末 手 ഗ

> IJ 引 の る 夫 き続 やデジタル 組 今 仕方については試 が、一人一人の特 で 心みを紹 ・後も各校での実践や先進的な 配 き研 信 介し、より良い学びにつ 究が必要と考えている。 教 無 科書 理 な 行錯 性に の < 導入をして 参 誤中であり 応じた活 加 で きる 取 用

> > ティブゾー

ンの整備を考えている。

<

すぐるような遊具を配置したアク

ーラースライダー

などの好奇心

配障

がいのある子どもも

楽しめ

る

慮したインクルーシブゾーンと、

その他の質問

設

置を予定している。

【その他の質問

学校施設開放事

業に

つ

い

て

ンにおける大型複合遊具

の部

分的 両ゾー

な

コロナ禍での事業者支 援について など

## こども 計画は ഗ 玉 大型複合遊 具設 置 事業



公明党

高 橋 正

ついて伺いたい。 問 い に 当事業の具体的な計 画 1=



久

保

しょう

に隣接し 答え】 た多目的芝生 整 備 構 想 は、 遊 園 広場側に、 一地ゾー

> 地元中小事業者への支援策 は

無所 属 上 条 幸 哉

支援につい た 業 中小事業者の 者への支援 問 い て、  $\neg$ ٤ 永続 ナ 所見を伺いたい 禍  $\neg$ 的発 1= ナ お 展の 後を見据 ける ため 中 小 の え 事

置 業 度 踏 の 企 一付ける、 まえ、 答え 方向 業振 中 ョンを策 の振興を市政の重 予算に計上するとともに、 小 ・企業の 令 和 性を定め 興 基 消 本条例制 八戸市中小企業・小 費喚 定 4 中 持 年 小 · 度 に 続的 · 企 業 たいと考えている。 起策関連経費を新 中 小企 は、 定について提 の な発展の 要な柱として 経 経済再 業の 済的 中 小 ため 振興 疲 生 規 弊 案 模 位 企 ത 年 を

> 具 て づき設置する会議にお 体 いきたいと考えている。 的 な 施 策 1= つい ては、 い 同 て、 条 検 例

# お知ら

議会ふれあいミーティングにつきま ムページに掲載しました。 令和3年11月21日に開催. 開催報告書を八戸市議会ホ しま 1

を収め アンケー れぞれの地区ごとに、 版と大館地区版に分かれており、 催報告書は、 た写真や参加者からの意見: ト結果などをまとめており 白銀·白銀南 開催のようす 地 そ X



ら閲覧 きます。  $\downarrow$ 



こちらの QRコード

か

\*3 インクルーシブ…インクルージョン(包括、包含、一体性)という言葉からきており、仲間はずれにしない、みんな一緒に、という意味。